

優秀賞

みんなの親切からできた公園

奈良県 大瀬中学校 一年

原口 理央

私の家の近くの公園には、掃除用具や掃除したあとのごみを捨てるごみ箱があります。私は、その掃除用具は、公園のまわりの地域の人たちの小さな親切からできているのではないかと思いました。

その公園には、もともと掃除用具はなく、一人のおじいさんが掃除や草かりをしていました。そのおじいさんもきっと、公園を利用する人が気持ちよくすごせるように、という親切心から管理をしてくれているのだと思います。特に秋や冬になると、木の落ち葉が大量にありましたが、それもおじいさん一人で掃除していました。

私も公園を利用して、落ち葉が気になっていたので、家からほうきとちりとりとふくろを持って行って、落ち葉の掃除をしました。落ち葉の掃除は、見ているよりも、かなり量が多くてとても大変でした。それをおじいさんが毎日一人で掃除していたのだと思うと、私たちのためにとてもがんばってくれたのだなあと、ありがたさを感じました。

私が毎日掃除をしていると、いっしょに遊んでいた友達も掃除をしてくれるようになりました。寒くて手や足もつかれるけれど、みんなでやると、とてもはかどるし、終わったあとのきれいな公園を見て、とても達成感を感じました。

おじいさんも私たちに感謝してくれて、一人ひとりに軍手を渡し、

「これ、掃除のときに使ってね。」

と言ってくれました。

次の年の秋ごろになると、自治体や子ども会、ボランティアなど公園の周辺に住んでいる人たちで、落ち葉掃除をするようになりました。掃除をする人が増えたので、おじいさんが自作した道具かけに、ほうきやちりとりが置かれるようになりました。

掃除をする人が増えたことをおじいさんも喜んでいて、

「あなたたちがはじめに掃除をしてくれたから、みんながやろうという気持ちになってくれたんだよ。」と言ってくれました。私は、地域や公園を利用する人たちの助けになれた気がして、すごく嬉しかったのをおぼえています。

今でも、公園を気持ちよく利用できる人がいるのは、掃除をしてくれる地域の方々の小さな親切のおかげだと思います。

これからも、どんどん掃除をする人が増えてほしいと思います。